

平成23年度「しあわせ倍増プラン2009」市民評価報告会

会 議 記 録

I 日 時 平成23年10月15日（土） 14：30～16：15

II 場 所 浦和コミュニティセンター 多目的ホール

III 議事次第

- 1 開会に当たって
- 2 評価結果の報告
 - ① 評価結果の概要
 - ② 市民評価委員会からの提言
 - ③ 委員所感
- 3 質疑応答
- 4 市長感想・自己評価
- 5 閉会に当たって

IV 出席者

- 1 委員（10名）（敬称略）

委 員 長 廣瀬克哉

委員長職務代理 長野 基

委 員 伊藤 巖、猪野智久、木島好嗣、高島 清、延原正弘、
橋本克己、林 美絵、福崎智恵

（欠席委員） 栗原俊明、野崎博行、町田直典、三浦匡史

○司会（福崎智恵委員）

皆様、こんにちは。

本日は、「しあわせ倍増プラン2009市民評価報告会」に、ご参加いただきましてありがとうございます。本日、司会進行を務めさせていただきます、市民評価委員の福崎智恵と申します。

よろしくお願いいたします。

それでは始めに委員会の取りまとめ役である、法政大学の廣瀬克哉委員長から、開会に当たってのごあいさつを申し上げます。



【司会：福崎 智恵 委員】

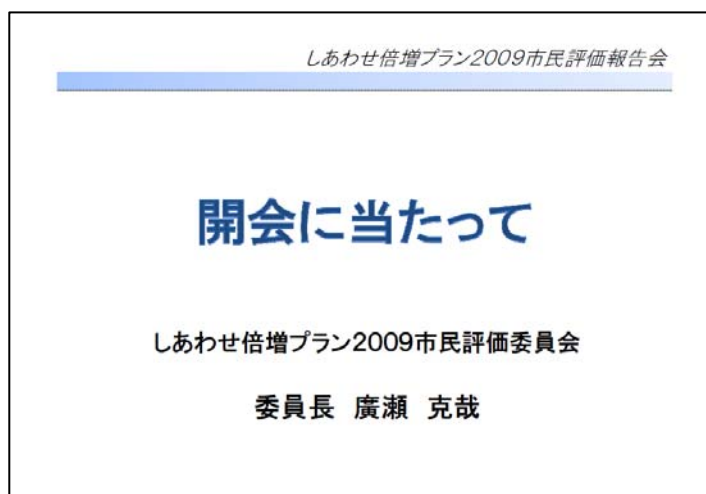


1 開会に当たって

○廣瀬克哉委員長

皆さん、こんにちは。本日は、しあわせ倍増プラン2009市民評価報告会によろしくご参加くださいました。お礼を申し上げます。私は今ご紹介ありましたが、しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会の委員長を担当させていただいております、法政大学の廣瀬と申します。

開会に当たりまして、本日の評価報告の趣旨と申しますか、位置付けについて簡単にご紹介させていただき、開会に当たっての挨拶とさせていただきたいと思っております。



こちらに今持ってまいりましたが、さいたま市では今から約2年前、2009年の11月に「しあわせ倍増プラン2009」という市の重点事業のパッケージを行政計画として策定しておられます。このパッケージの中の重点政策をどのように検証しながら進めていくかということが冒頭において計画として盛り込まれておまして、平成21年度から24年度までの「しあわせ倍増プラン2009」の達成状況を毎年度1回開催する市民参加による検証大会によって検証することとしています。これを担当するため、平成22年7月2日に市民評価委員会が設置され、昨年行った評価につきましては、昨年の12月18日に市民の皆さんに報告をいたします市民評価報告会を開催したところであります。



【廣瀬 克哉 委員長】

今年度におきましても、6月6日に8名の公募委員、それから市のさまざまな地域、あるいは経済界等々関係の団体の代表者の方、そしてまた有識者等合わせて14人で構成される市民評価委員会が設置をされ、今年度延べ10回の会議を開催して活発に議論を重ねながらこの「しあわせ倍増プラン2009」の昨年度1年間の達成状況についての評価を進めてまいったところでございます。

特に、これは2009年に策定をされまして、2009、2010、2011、2012と、4年度にわたる計画となっておりますけれども、策定の初年度は11月の策定で、その翌年3月末までの進捗の評価でありました。そして、今年度は2010年度の丸一年間の進捗状況の評価でございますので、丸一年フルに取り組まれた状態の評価としては今回が初めてということになります。

他方で、既に3年目に当たります2011年度が半分少々過ぎておりますので、その意味では今日の評価報告をフィードバックして、それを踏まえて今後の改善に役立てていただくとしますと、これはもう節目の年であって、来年、今年と同じ時期に行うとすれば、来年の時点で出てくる3年目の評価はもう4年目が半年過ぎておりますので、どちらかというともう事後評価ということになってまいります。今後の改善のための達成状況の中間の点検としましては、今年が節目の年ではないかと思っておりますけれども、その節目の評価をこれから皆さんに報告をさせていただき、そういう趣旨でございます。

そしてまた、これが清水市長が2009年5月の市長選挙で掲げられましたマニフェストの項目が市の事業として、市の行政計画としてどのように取り組んでいくかというのを取りまとめたのが、この「しあわせ倍増プラン2009」

です。この清水市長の任期の中間における進捗状況の評価という意味も持っていることとなります。

では、これから2時間弱の時間となりますけれども、市民評価委員会からの2010年度の達成状況の報告につきまして、順次説明をまいります。どうぞ耳を傾けていただきまして、また疑問点については質疑応答の時間を設けておりますので、そこで活発にご議論いただければ幸いです。

以上を持ちまして、まず今日の報告会の趣旨の説明を兼ねまして、開会の挨拶に代えさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○司会（福崎智恵委員）

ありがとうございました。それでは、早速ですが、「しあわせ倍増プラン2009」の評価結果についてご報告させていただきます。本日は、会場正面のスクリーンに資料映像を映しながらご報告いたしますので、そちらにご注目ください。本日お配りしております市民評価報告書は、適宜ご参照いただきながらお聴きください。

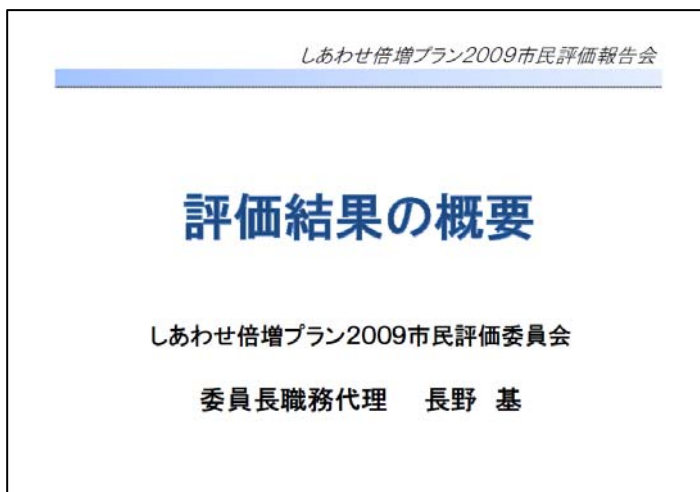
なお、ご来場の皆様からご質問をお受けする時間は、委員からのご報告を終えた後に用意しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最初に委員長職務代理を務められた長野委員から、評価結果の概要としまして、評価方法及び評価基準、評価結果等についてご報告いたします。



2 評価結果の報告

① 評価結果の概要



【長野 基 委員長職務代理】

○長野基委員長職務代理

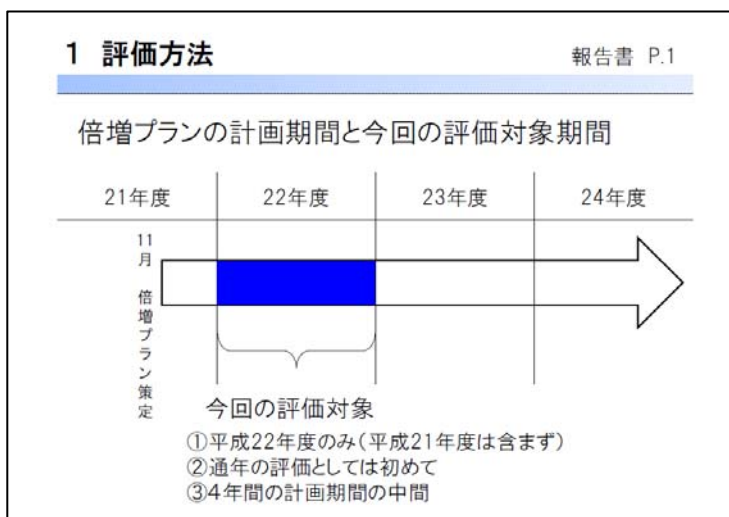
それでは、私、長野より今年度の評価結果の概要について、皆様にご報告いたします。皆様のお手元には本報告書の本編、そしてパワーポイントの資料がお手元にいつているかと思ひます。同じ画像を皆様の正面のスクリーンにも映してまいります。そちらをご覧いただきながら内容を確認していただければと考へております。（※資料1参照）

まず、本年度は平成22年度の評価を行っております。カレンダー上では1年前のこの時期の評価でございます。なお、先ほど廣瀬委員長からお話がありましたとおり、平成22年の12月にご報告申し上げましたものは、プラン策定から年度末までの間のものございました。そういう意味では、この1年間の評価をしたのは、今年度が初めてということになります。

ただ、私どもの評価のあり方はあくまでも1年間ごとの単年度の目標設定に対して、その単年度のパフォーマンスがどうなのかを見ております。

4年間全体でどこまでかというわけではございません。したがって、少し感覚的に違うのではないかとということがありましたならば、その点はあくまで単年度ごとの目標がどうなっていたのかということでもあります。

なお、この図が出ておりますので、先ほどの廣瀬委員長の話を確認しますと、平成23年度の評価というのは24年度の



(※資料1)

このライン、このあたりでやるということになりますので、そういう意味でも今回が中間的な評価になるということでもあります。

さて、続きまして評価の基準であります。(※資料2参照)

繰り返しになって恐縮なのですが、あくまでも単年度の目標が設定されておりますので、それにほぼ見合う成果があった場合にはこの「b-7」をつけることとなります。行政計画ですから、これがある意味一番多くならなければいけないということになりますし、逆に言うと、ここから下のこの部分はできるだけ少なくしなければいけないということになります。では、その結果がどうだったかというのがその次以降の話になります。

なお、今回は昨年度と違いまして、重点を絞って評価の時間をかけることにいたしました。

(※資料3参照)

基本的には、行政職員による内部評価の資料を、その書面の内容を信頼して、そしてその上で特に大事であると我々が考えた50の事業に絞り込んで、つまり40

パーセント程度に絞り込みまして、担当の所管課の課長の皆様にヒアリングをして、さらに詳しく情報を得て評価をしております。そのほかは書面でということになります。

なお、139の事業でありますけれども、昨年度時点で2本の事業が終了しているものがございまして、今回の評価報告書の137本の事業結果が載っているということになります。

さて、次でございまして、その概略ということでございます。

(※資料4参照)

先ほど申しましたとおり、139の事業の中でもう2本が

1 評価方法 報告書 P.2

評価基準…平成22年度の単年度目標に対して

評価基準	進捗度	加減要素	点数
目標を上回っている	a	↗	10
		→	9
予定どおり実施している 標準	b	↗	8
		→	7
		↘	6
目標と比べて遅れがあるが実現に向けて実施している	c	↗	5
		→	4
		↘	3
未着手または大幅な遅れがある	d	↗	2
		→	1
		↘	0

(※資料2)

1 評価方法 報告書 P.3

評価の実施手法

①議論を深める事業の選択と集中(ヒアリング対象事業の絞り込み)

▶ 昨年度:139事業すべてをヒアリング

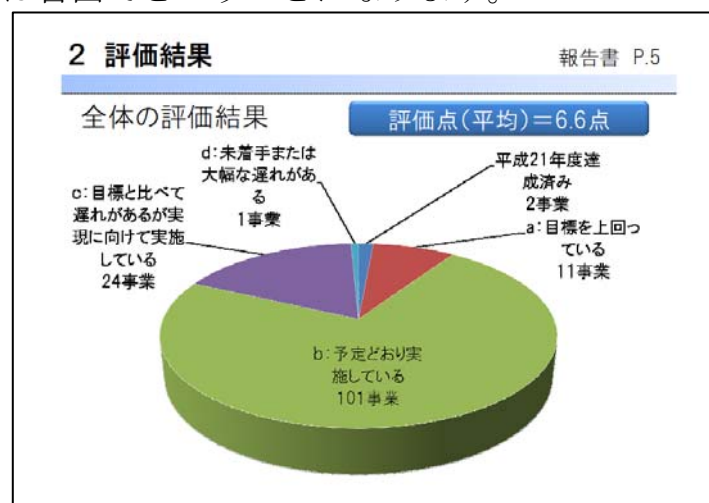
▶ 今年度:ヒアリング対象を50事業に絞り込み、議論を深める。(残りの事業は書類審査で評価)

②重要度評価の取扱い

▶ 昨年度:3段階の重要度評価を実施

▶ 今年度:質的な評価については、委員のコメントとして集約(3段階の評価は実施せず)

(※資料3)



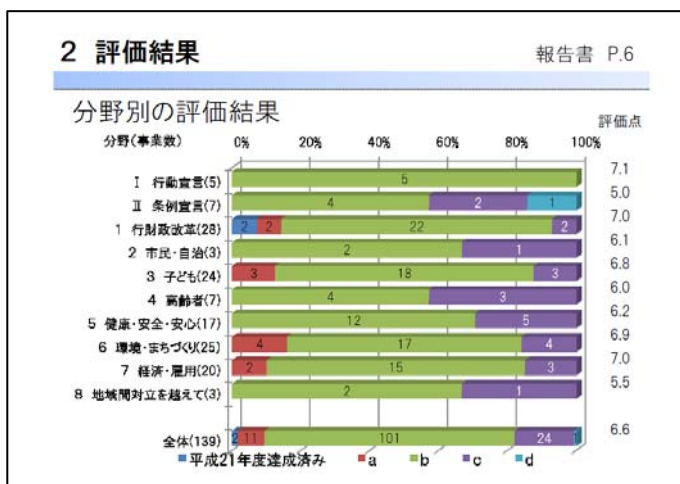
(※資料4)

終了しておりますので、それ以外が137事業になるわけですが、予定どおり進捗していると我々が評定したものがおよそ100事業でございます。

残念ながら未着手あるいは大幅な遅れがあるものが若干ございます。それから目標に比べて少し遅れているぞというのが大体これくらいあったということになります。逆に、単年度ベースで見た目標を大きく上回る成果があったというケースのものがこれくらいあったということになります。

この内容をさらに詳しく見てみますと、次のグラフになります。(※資料5参照)

こちらが分野別での報告になります。もちろん、分野は構成している事業の本数が違います。したがって、すべて同じ位置付けになるというわけではございませんが、見ていただきますと、行動宣言の部分など、これら市のスタンスとしてこれ



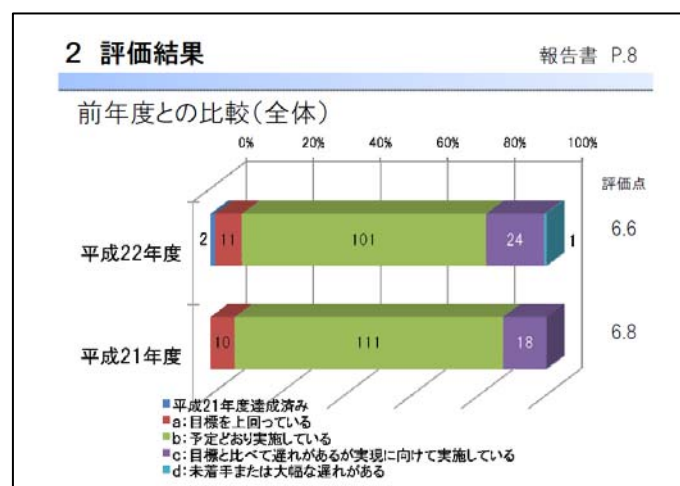
(※資料5)

はやるといふものについてはほぼ予定どおりです。

あるいは、内部改革がというこの部分については比較的何とか予定どおりですが、逆に市民の皆さんに働きかけをして協力を得てようやく成果が上がるようなものだったり、あるいは昨今の経済動向を踏まえてなかなか市の努力だけでは難しい事業があった領域につきましては、点数が低くなるということになります。

これは、この1年間の概略であります。これを昨年度と比べて見ますと(※資料6参照)、この数字が若干変動しております。先ほどの時間軸のご報告をしまして、去年はプランが策定され、年度末までのおおよそ4か月間を対象としました。

したがって、どうしても計画目標自体が準備をするという目標になっておりました。単年度の目標が準備をするようになっていました。



(※資料6)

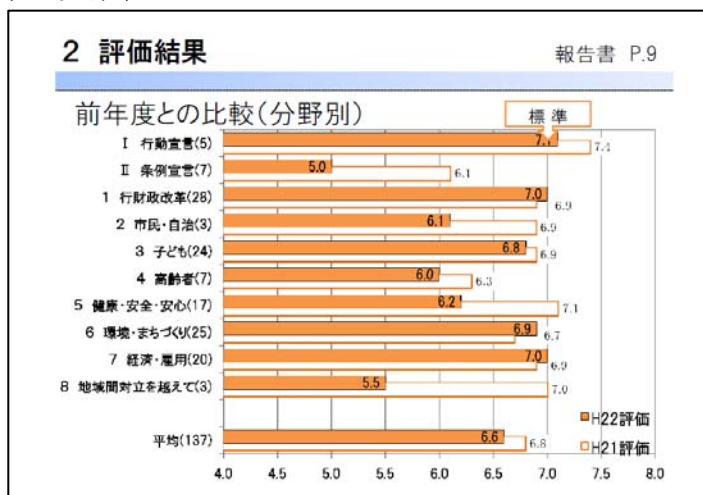
ですから、準備をしたということであれば予定どおりということでありました。今年の評価では、いよいよそれがどの程度の数値目標であったり、あるいは事業の結果が生まれるか具体のチェックが入ります。

そうすると、この部分が少し減るということになります。昨年に比べますと、

平均点でこれだけの差が、主にはこの部分が昨年度よりは厳しい評価となったという結果になりました。

さらに、昨年度の変化をもう少し詳しく見たいのですが、分野別の先ほどのグラフにありましてとおり、7点というのが予定どおりということなので、その予定どおりという基準を見た場合はこのあたり、そしてこういうように低いものが出てまいります。(※資料7参照)

もう少し先のスライドで、特に低い事業を取り上げていくのですが、領域だけで見ても、例えばこちらの方は議会との関係がありますので、行政側としては準備したけれども最後議会で可決されなければ施行には移れませんので、どうしても低い評価ということになります。



(※資料7)

また、先ほど申しましたように、例えば大規模な都市計画事業のようなものが含まれている場合ですと、どうしても地権者の対応などが含まれて、なかなかうまく進まなかったというのも存在しています。

こちらのよう、分野別で見た場合には、このようなエリアがほぼ予定どおり進んでいるのですが、このあたりというのは少し厳しい状況にあるということになります。

今度は、分野から個別の事業の方へ移っていくのですが、皆様のお手元に、少しわかりづらいかもかもしれませんが、平成21年度の評価では予定を大きく上回った、予定どおり、少し遅れがあるという「a・b・c・d」のグラフ、逆に今年度、予定を大きく上回った、予定どおり、少し遅れがあるぞ、大きく遅れがあるぞというのをこのマトリックスにしてみました。

(※資料8参照)

2 評価結果 報告書 P.12

評価の変動があった事業

前年度比アップ 17事業

H22 \ H21	a	b	c	d	合計
a	3	8			11
b	3	89	9		101
c	4	12	8		24
d			1		1
H21達成済み		2			2
合計	10	111	18	0	139

前年度比ダウン 20事業

(※資料8)

当たり前と言えども当たり前なのですが、予定どおりの「b」というところが最も大きくなるのでありますが、問題点は次であります。

遅れているというのがここに並んでいるのですが、しかも去年も遅れている

し今年も遅れているというのがこれだけあるというのがわかりました。あるいは、去年も遅れているし今年も大幅に遅れているというのがこのあたりで、要注意という政策領域であります。これがこれくらいあるのだというのが見えてまいりました。

個別の点数につきましては、皆様のお手元の資料の巻末の方に載っておりますので見ていただくのでありますが、これだけ要注意な事業項目があるということになります。

そして次ですが、この評価のメカニズムとしまして、行政職員による内部の評価と私どもの外部の評価を突き合わせるということが大きな特徴です。(※資料9参照)

このように横で見てくださいますと、私どもの外部評価の方が「a」ランクにつきましては4つほど差が、逆に「c」の方では2つほど、行政職員の方による内部評価に比べると、いやそれは少し点を付け過ぎではないでしょうかという項目がこれだけあったということがこちらの結果でございます。

また、先ほどの要注意という言葉が踏まえますと、このエリアの領域は、単年度目標で見た場合に遅れているので気をつけなければいけないということになります。

さらに、この内部の評価と外部の評価の差を少し詳しく見てみますと、このようなことになりました。(※資料10参照)

およそ1割の評価、事業項目については、行政職員による内部評価よりも我々の方が高い点数をつけています。平均点で見ているので、その意味では一人一人の評価委員で言えることではないのですが、あくまで平均点で見た場合なのですが、およそ1割の事業については、内部評価より我々の方が高くつけています。

逆に、こちらは低くついているということですね。この行政の内部の視点と

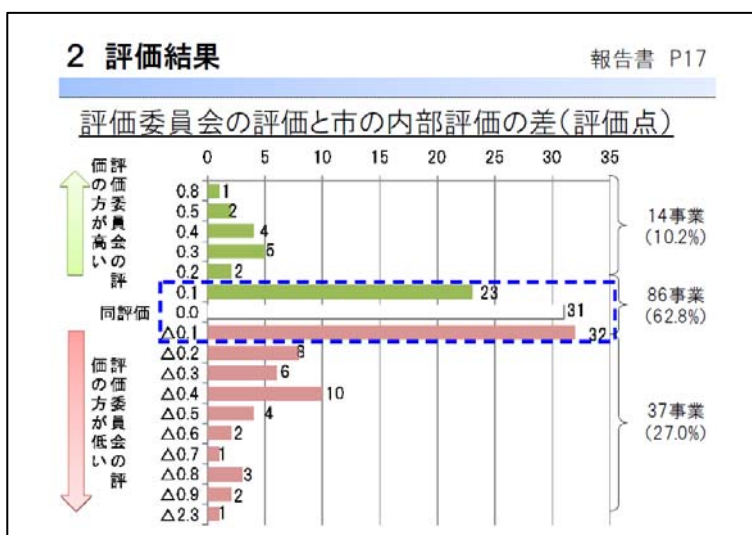
報告書 P16

2 評価結果

評価委員会の評価と市の内部評価の差(進捗度)

	評価委員会の評価		市の内部評価		
	事業数	平均点	事業数	平均点	
a: 目標を上回っている	11	8.8	15	9.0	4事業
b: 予定どおり実施している	101	7.0	99	7.0	
c: 目標と比べて遅れがあるが実現に向け実施している	24	4.3	22	4.2	2事業
d: 未着手または大幅な遅れがある	1	0.6	1	1.0	
合計	137	6.6	137	6.7	

(※資料9)



(※資料10)

我々外部の視点の差がこのように出ているということになります。

では、この上回ったものと下回ったものの中でどれが最も差がついたのか、その差が大きいものについて、次のスライドでご紹介したいと思います。（※資料1 1 参照）

赤印が我々評価委員会の方が低く付けたもので、プラスと書いたものが我々評価委員会の方が行政の内部の採点よりも高く評価したものです。

このような点数になっています。この高く評価した条例に関することは、条例は可決されていないので「c」という評価なのですが、私どもの方ではもう条例文を全部成案してちゃんと議会に出しているのです、それは可決されなかったとしても準備としては一定程度進んでいると考えて、内部評価より高い点数をつけています。

2 評価結果

報告書 P18

評価委員会の評価と市の内部評価の差が大きい事業

- ✓ マニフェスト検証大会 (b-7.1、 $\Delta 0.9$)
- ✓ 文化都市創造条例 (c-4.8、 $+0.8$)
- ✓ 予算編成過程の公開 (b-7.2、 $\Delta 0.8$)
- ✓ 身近な道路整備要望への対応状況公表(b-8.2、 $\Delta 0.8$)
- ✓ 高齢者サロン (c-4.7、 $\Delta 2.3$) ※評価対象範囲の変更あり
- ✓ 民間住宅の耐震化 (c-5.1、 $\Delta 0.9$)
- ✓ 歴史的遺産・自然環境の活用 (b-7.2、 $\Delta 0.8$)
- ✓ 暮らしの道路・スマイルロードの整備 (b-8.4、 $\Delta 0.6$)
- ✓ 雇用倍増プロジェクト(戦略的企業誘致) (b-8.4、 $\Delta 0.6$)
- ✓ ベンチャービジネス倍増プロジェクト(人材育成支援)
(b-8.3、 $\Delta 0.7$)

(※資料1 1)

それ以外に関しましては、そうは言っても、もう少し厳しく評価するのが市民感覚ではないのでしょうかということでも少し低いものが多く並んでいます。

なお、この中で一番点数の差があったこの部分の高齢者サロンというのは、少し説明をさせていただきます。

こちらは、行政のプランでは当初の内容からしたときに、昨年度私どもの委員会の協議の中でこれは市全域で見た場合に高齢者サロンという役割を担っている組織がどれだけあるのかをもってカウントした方がいいのではないのかなどの意見があったので、今年度は行政職員の方は高齢者サロンという機能があるものがいくつあるのかと実績をカウントなさっていたのですが、評価委員会の検討の結果、プランを詳細に見ると、これはあくまでも行政が一定の関与をして具体的に補助金を出して行っているものと非常に狭い目で見定めるべきだという結論になり、そこで改めてカウントしたところ、目標設定数からかなり下回った結果だったということがわかったので、そういう意味でこの評価すべき対象数の減少ということがあり、大きな差がついているということになります。

このように、上回ったもの下回ったものということで分析した結果としまして、うまくいっていない原因というものをいくつかタイプ分けをしました。それが次のスライドです。（※資料1 2 参照）

詳細につきましては、お手元の報告書の2 1 ページ以降に書いてあります。

例えば、シルバー人材センターなどの事業、あるいは観光客の誘致、誘客などが含まれる21ページを見ていただきますと、こういったものにつきましましては観光客の誘致などに関しましては景気の変動もあり、なかなか市単独では難しいということもありますが、シルバー人材センターの問題などに関しては、背景と

なっている法律や労働基準監督署からのご指導など、少し事業前提が大きく変わっている面がございます。いくつかのものに関しましては、そもそも作戦の練り直しをしたらいいのではないかとというのが一つの領域として浮かび上がってきました。

2番目のこの部分、皆様のお手元の21ページですと、パブリックコメントだったり、あるいは民間の建築物の緑化など、これは補助金を提供して緑化を図っていくということなのですが、これが目標どおりしていないということでした。これは、助成金を出して緑化してもらうなどの例が典型になるのですが、どうもその補助金の使い勝手がよくなかったり、あるいは必要とされる市民の方にちゃんと情報が届いていないということで、これはひと手間というのでしょうか、一工夫というのでしょうか、制度的な運用上の工夫をもう少しする必要があるのでないかというものが、第2の категорияとして出てまいりました。

3番目です。先ほどの例に挙げました高齢者サロンなどでは、地域の方の力が大変大きな要素となってまいります。また、22ページになりますが、大宮の東口の再開発の問題などでは、やはり地権者の方のご理解といったものも大変重要になります。関係機関との、あるいは関係する方々との調整により力を込めなければプランはなかなかうまく進まないという領域であります。これが第3の領域です。

最後ですが、例えば、市の政策の重要な会議であります都市経営戦略会議の結果がスムーズに公開されるという目標に対し、それがなかなかできていないなど、どうも市の内部のスケジュール管理上の問題があるという領域も存在していました。

報告書 P.20

3 評価委員会からの提言

今後の倍増プランの進捗管理

①遅れている事業にはいくつかのパターン

- 目標達成に向けて事業の再検討が必要
 - ・アウトカム指標を目標に設定した事業
- 使い勝手の良い制度にするために工夫が必要
 - ・市民の利用者数を目標に設定した事業
- 関係者との調整に努力が必要
 - ・市以外が実施主体になる、またはその協力が必要な事業
- 内部のスケジュール管理に課題
 - ・内部検討を行う事業、内部事務にかかわる事業

(※資料12)

これらの問題の種類ごとにそれぞれに適応した対策をとっていかないと、遅れは取り戻せないのではないかとということが見えてまいりました。

逆に、目標を上回っているものもあります。(※資料13参照)

それは、これまでの評価を踏まえて、予算の配分の仕方をより重点化したことがその要因にあるというものも見えてまいりました。これらを参考にしながら、工程の管理に力を尽くしていただきたいと考えております。

また、工程表を先取りして計画以上の取組をなさっているものも存在します。

これらの成果を他の政策項目につきまして、応用していき、そしてより発展を図っていただければと考えております。

以上が我々の評価の概略でございました。今後の提言につきましては、廣瀬委員長の報告にお願いしたいと思います。どうもありがとうございました。

○司会（福崎智恵委員）

ありがとうございました。

報告の中でお手元の資料をご参照いただきますよう申し上げましたが、パワーポイントのスライドにつきましてはお配りしておりません。報告書をご覧くださいませよう、よろしくお願ひ申し上げます。

続きまして、市民評価委員会からの提言のうち、今後の倍増プランの進捗管理等について廣瀬委員長からご報告申し上げます。

3 評価委員会からの提言

報告書 P.23

今後の倍増プランの進捗管理

②進んでいる事業にもいくつかのパターン

目標達成に向けて予算が重点的に配分

工程表を先取り、計画以上の取組を実施

(※資料13)

2 評価結果の報告

②評価委員会からの提言

○廣瀬克哉委員長

では、引き続きまして今後のコメントと申しますか、市民評価委員会からの提言につきまして、私から説明をさせていただきたいと思います。

ここまでの評価結果につきましては、先ほどもお示したこの「しあわせ倍増プラン2009」、この計画そのものがいわば物差しとなっております。

この物差しに照らして、現実にはちゃんと予定どおりに進めば「b-7」ということになる。遅れている、進んでいるというものが先ほどご説明したように何項目ずつかあるということでもございますが、2年目を終えまして、3年度目の途中にある現時点から見ますと、少しこの物差しそのものの再検討もいるのではないかと、それをどういう観点から見直しをしていくべきかということ、以下4点ほど提言をさせていただきたいということでありまして。

報告書では24ページ以下のところに記述してございます。(※資料14参照)

まず、1点目ですけれども、物差しそのものが比較的、概括的に書いてある、あるいは抽象度が高いというところで、確かに取り組まれてはいるのだけれども、これに取り組むことで何をどこまで達成するというのが本来目指すべき達成目標かということが抽象的にはわかるけれども、こう取り組みましたというご報告をいただくと、これを、100点と言っていいのか、120点なのか、あるいは80点なのかということが、なかなか物差しとして計りにくいものがございます。

何をどこまでやるのか、そしてその何をどこまでやるということが事業全体の達成目標、何にどのような効果をもたらすことを目指すのか、それに照らして積極的な事業目標になって必ずしもそこに至っていないやや抽象度の高い

評価委員会からの提言

しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会

委員長 廣瀬 克哉

3 評価委員会からの提言

報告書 P.24

今後の目標設定のあり方

①工程表(事業計画)の明確化

- ・ 明確な単年度目標の設定→評価→反映のサイクルを構築する必要

②倍増プランの(4年間の)目標の変更

- ・ 社会経済情勢の変化に応じて目標を変更する必要

③目標を達成した事業に対する今後の評価の検討

- ・ 評価を終了する事業と、新たな目標を設定して取り組む事業を整理すべき

④評価要素におけるコスト・パフォーマンスの重視

- ・ 事業実施の効率性(コスト・パフォーマンス)を評価において重視すべき

(※資料14)

目標設定の項目がございますので、これについて強化していただきたいと思っております。これが1点目です。

それから2番目に、2009年の秋に向けて検討を進められて具体化された物差しがこの「しあわせ倍増プラン2009」でございます。

その後も大きく社会経済情勢は変化しております。今年も、3月11日の大震災のような大きな変動要因も生まれてきております。



【廣瀬 克哉 委員長】

その中で、よい方向で言えば、2009年の時に予測していたよりも世の中の流れが早く望ましい方向にどんどん進んでいるので、そのままの目標で言えばもう達成してしまった、だからその意味では、物差しを元のままにすれば「a」の評価になりますけれども、もっと先までいけるのではないかとということについては、更に次の目標

を設定していただき、引き続き取り組んでいただくことが成果を更に上げていくことにつながります。

他方で、非常に経済情報含めていろいろと困難な社会状況も出てきている中、なかなか当初立てた目標の実現は難しいのではないかとこのものもございませう。そういうものについては、何らかの次善の策としての修正目標というものも立てながら、その困難な状況の中で、しかしどこまで実現しなければいけないかということのを改めて見直していく領域も必要になるのかと思っております。これが2番目でございます。

それから3番目は、例えば、何々計画を策定する、あるいは何々条例をつくるというもので、条例や計画が策定されれば、「しあわせ倍増プラン2009」の目標から言えば完了となります。その完了において、完成するものもございませう。今年139事業のうち2つを評価対象にしていらないということを冒頭に申し上げましたが、この2つなどは本当に完了しているものです。

他方で、計画を立てるといふもの場合は、今度はその計画に則って、計画が立てた目標に向けて取り組んでいただく必要が次のステップとして出てまいります。「しあわせ倍増プラン2009」では、計画をつくることをまずは

到着目標として掲げられましたけれども、既にそこまできているのであれば、今度はその計画をどう実施していくかという次のステップの目標設定をぜひお願いしたいというのが3番目です。

それから4番目ですが、これはなかなか難しい面もあろうかと思いますが、ある意味、物事を重点的に取り組もうということで資源の配分をしっかりとすれば、当然進むということが期待できるわけであります。

例えば、予算を必要としない事業はほとんどないわけでありまして、予算をしっかりと配分すればそれで予定どおりの取組は実現可能になる。ただ、それはもう少し経済的に実現できなかったでしょうか、今予算というものは限りがある中で取り組んでいくわけですから、コストパフォーマンスの要素を盛り込んだ形での、特に予算の投入によって事業の実績を上げていくというタイプの事業項目については、コストパフォーマンスの要素をぜひ入れていただきたい、というのが4番目の項目でございます。

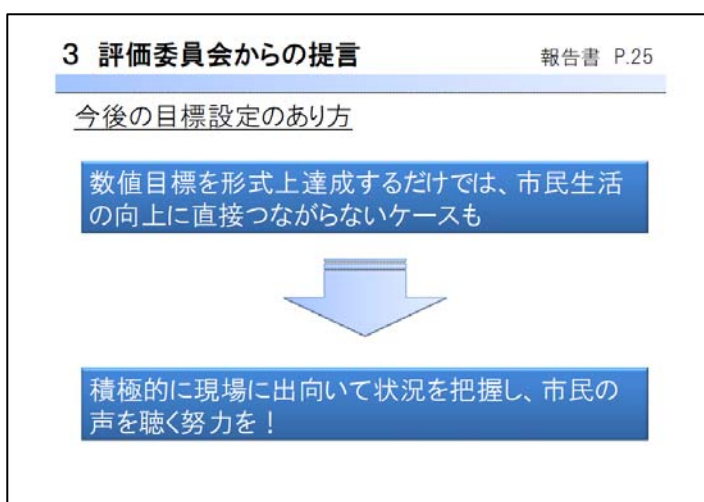
さて、それからいろいろな事業について議論をしている中で、時々出会ったのが、確かに予定どおりに取り組まれていて、何を何回開催されます、これこれという制度を整備します、ということについては確かに達成されてはいるのだけれども、その取組が何を目指していたのかという観点に立つと、それがどこまで達成されているかということが、行政が何をしたというレベルまでは把握でき

ているけれども、その先の例えば市民生活にどのような効果が出たかというレベルにはなかなか把握ができていないものがいくつかあったように思います。

(※資料15参照)

これは、ぜひ市の担当の方に、あるいはまた重点的な項目については市長さんに現場にぜひ行っていただいて、その当事者とのコミュニケーションを密にさせていただく中で、市がこれをやりますということを通して何かを目指します、市がこれをやりますということをやったことによって目指したことに近づいたかどうか、現場感覚をもって検証していただきたいと思いますというふうに思う次第であります。

先ほどの進捗が難しいものの要素の中に、相手方があるというのがございました。関係者との合意、協力をしっかりと実現していかないと初期の成果が上がりにくいものがございますので、その点では徹底した現場主義で効果というものを検証していただくことを期待してまいりたいと思います。



(※資料15)

それから、今後の重点化（※資料16参照）、今年の評価対象で言うと137項目ありますが、全部が同じ比重というわけではないだろうと。特に例えば、従来、軽視していたわけではないでしょうけれども、3.11を経験した上で改めて2番目の項目はこれまでの取り組み方、何を指そうという想定がそれで十分だったかどうかということも検証していなければならないだろうと思

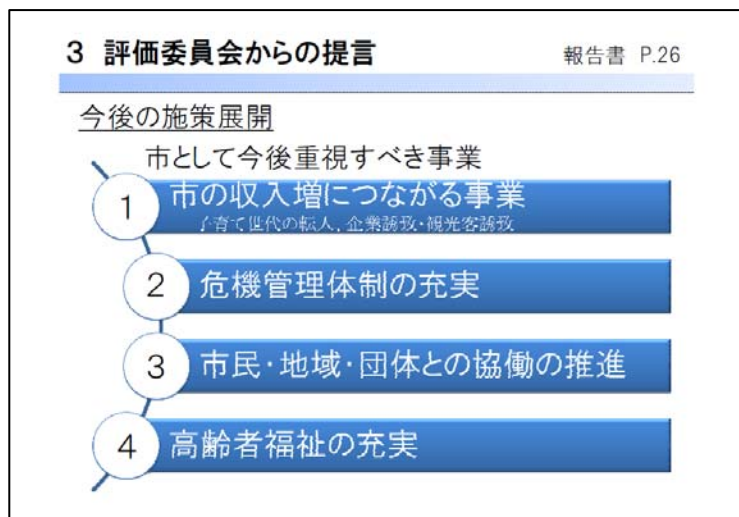
いますし、財政状況の厳しさというものに直面する中で、厳しい中で縮小再生産の発想になるのではなく、やはり積極的に市の発展のために投資をしていく、もう少し俗っぽく言えば、稼ぐための政策もしっかりやりながら、しっかりと財政基盤を固めていく、という要素も重要性を増しております。

また、市民や地域やさまざまな団体との協力関係の中で積極的に推進していくべきポイント、それは先ほどの現場主義と直結してくる問題であります。

そして市民アンケート等で必ず上位になっていますのが、高齢化が進んでいく中で、今後、更に安心して住み続けていける条件を整えていく、そういう意味での高齢者福祉の充実ということも非常に重要なポイントであろうかと思

います。これらの点を重点的に取り組んでいただきながら、3年度目のもう真ん中に来ておりますけれども、3年度目の取組、そして4年度目の取組へとフィードバックをかけていただければ幸いです。

以上、提言でございます。



（※資料16）

○司会（福崎智恵委員）

ありがとうございました。

続いて、委員所感を各委員から順次ご報告申し上げます。

まず初めに、伊藤委員からご報告申し上げます。

2 評価結果の報告

③委員所感

○伊藤巖委員

ただいま紹介いただきました伊藤巖でございます。

平素は多大なご協力誠にありがとうございます。

今回、私からの所感ですが、ここに出席の皆様をはじめ、市長・役所の幹部の皆様、事務局の皆様、その他多くの関係者の皆様には、資料作成・文書整理等いろいろとやっていただきました。

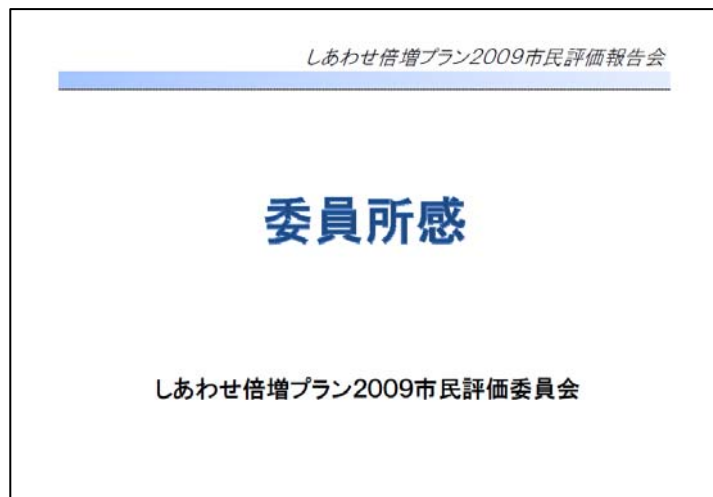
私はプロではないため、話に伝わり難い部分もあると思いますが、感じたことを述べさせていただきます。

自治会連合会の代表として、多くの現場状況を見てきた中で、その訪問の回数へのこだわりを感じます。（※資料17参照）

しかし、「訪問の中身」が大切であって訪問先での意見を聞いて、それをどう形にし、進むかの参考にするのであればわかりやすいのですが、「回数を多く行った」という話が多く、なかなか一般の市民には理解できないのが実態であると思います。

それから、高齢者等のサロンについては、社会福祉協議会から委託を受け、高齢者が活動し

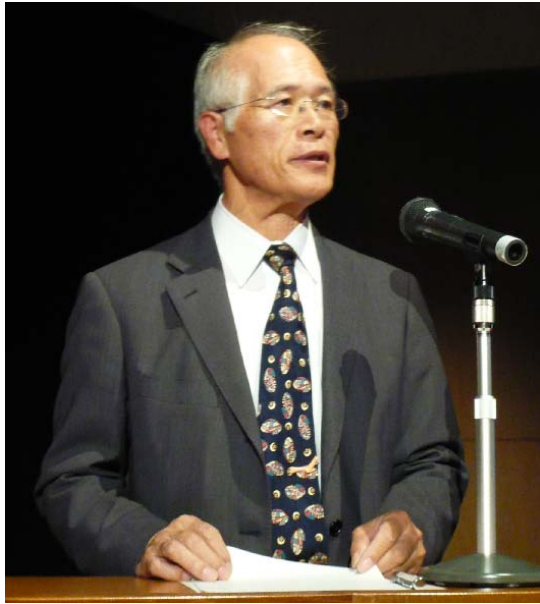
やすい場所の提供によりお金があまり掛からずに集まり、活動できることを目的に行っていると思いますが、実際は、特定の方々に偏ってしまっており、本当に困っている方々は自宅の部屋に入ったまま出てこないのが実態だと思います。



伊藤 巖 委員	報告書 P.29
①市民サービスの向上につながる取組みが必要	
✓現場訪問(No. I-3)、学校訪問(No. I-4)	
✓高齢者サロン(No.33-1)	
②高齢者と地域を結びつける工夫を	
✓シルバー人材センター(No.34)	
✓シニアユニバーシティ(No.35)	
③防災対策の充実	
✓避難場所	
✓防災ボランティアコーディネーター	
✓環境エネルギー対策	

(※資料17)

それを踏まえると、プランと結果が伴っていない部分があると思います。行政の関係者の皆様は、特に現場でどのような問題がどういう形で動いているのかというのを特別の流れとともに捉えていただければ、より喜ばれる地域になるのではと感じております。



【伊藤 巖 委員】

シニアユニバーシティについては、勉強することは結構なのですが、その成果をどのような形で地域に戻って活かすか、ということが具体的になれば、価値が上がり、更に地域が活性化するのではないかと感じます。

自治会では、地域活動を数多く行っておりますが、理屈で行うわけではありません、理屈が多いと自治会員本人がやりがいを失い皆引いてしまいます。今日も雨の中、「防災訓練」を行ってまいりましたが、周囲は自治会役員・民生委員関係者などがほとん

んどで、市民参加割合が低く感じられました。

やはり、地域活動には、理屈は不要、参加して良い点、悪い点を具体的に改善点として見出すというのが一番あるべき形ではないかと感じています。おそらく今回ここにおいて、自治会から多くの参加があるようには見受けられませんが、その辺も問題の結果ではないかと感じております。

耳の痛い話かもしれませんが、現実にはそういった状況であるということで、ご勘弁いただき、私の所感とします。どうもありがとうございました。

○司会（福崎智恵委員）

ありがとうございました。

続きまして、猪野委員からご報告申し上げます。

○猪野智久委員

桜区在住の猪野です。学生という立場から、昨年に引き続き公募市民として委員を務めさせていただきました。

主に個人的に注目していた分野と施策に関する意見を述べさせていただきます。

私は、この事業評価を行うに当たって常に意識していたのは、もし自分がさいたま市に住み続けるならば、というものを意識しておりました。

これを考えてみたときに真っ先に私が関心を持ったのは、子ども分野でした。

(※資料18参照)

将来の自分の子どももしか、これから未来を担う子どもたちがどういう環境で育っていくのか、そこに大変興味がありました。

特に、事業ナンバー18-1番の「読み・書き・そろばんプロジェクト」、事業ナンバー21番の「土曜チャレンジスクール」には注目していました。

自分もかつて書道やそろばんを習っておりまして、あと土曜日は学校がありまして勉強していました。



【猪野 智久 委員】

猪野 智久 委員

報告書 P.31

①子ども分野

- ✓読み・書き・そろばんプロジェクト(No.18-1)
- ✓土曜チャレンジスクール(No.21)
→ 事業の検証作業の充実

②環境・まちづくり分野

- ✓LED化(No.42)
- ✓太陽光発電推進事業(No.43)
- ✓次世代自動車普及促進事業(No.44)
→ 憧れ・誇りを感じるまちづくり

(※資料18)

そういったことを考えると、子どもの基礎学力や学びに対する姿勢にかなり影響を与える事業ではないかという印象が強かったので、こちらの分野への関心が高まりました。

「読み・書き・そろばんプロジェクト」では、進捗度に関しては「b-6.1」という評価で、一部、土曜チャレンジスクールにおける実施コースに遅れがあったのですが、今後、事業が進捗していく中で子どもたちに何かしらよい変化をもたらされることを期待しています。

「土曜チャレンジスクール」については、進捗度は工程表どおりでしたが、一方で事業の効果についての検証作業が不十分ではないかなと感じました。

職員の方からは間接的に指導者の声は聞いているが、直接的に現場の子ども

たちの声は聞いていないということで、それでは施策効果は見えてこないと思います。今後はぜひ現場の生の声を聞いて、それを事業に反映させてほしいと思いました。事業の実施に伴う検証作業の充実、これをしっかり行ってほしいと思います。

一方、僕は理系で太陽電池とかの研究をしているのですが、環境分野の関心も高かったため、環境・まちづくりの分野にも注目してみました。

こちらの分野では、事業ナンバー42番から43番のそちらのパワーポイントで示してある3つの分野に注目しました。

LED化事業については、目標を大きく上回って「a-8.6点」という評価、太陽光発電事業については目標どおりの進捗で「b-6.9点」という評価、次世代自動車の普及については、公用車への導入及び急速充電器の設置に遅れがあるものの、次世代自動車の登録台数は大きく伸びており、これら3つのエネルギー関連事業は順調に進んでいるという印象を受けました。

また、職員の方よりE-KIZUNAサミットがさまざまな地域や企業に影響を与えると、そういった報告を受けまして、さいたま市が電気自動車、エネルギー分野等で世界をリードしているのだなという認識を強くいたしました。そういった市のプラスのイメージになるそういう部分というのは、もっともっと積極的に市民にも伝えていってもよいのではないかと思います。

誰もが憧れて誇りに思えるようなまちづくりを期待しております。

学生ということで臨んだのですが、やはり学生というのは、さいたま市に住み続けるとは限らないわけで、多くの学生が市外もしくは県外に出てしまうと、そういった時に学生がまたその出て行った後で、さいたま市は良かったなど、さいたま市に住んでいた方が良かったなど、逆にまたその後になって戻ってくるような、そうしたまちづくりをぜひ、していただきたいと思っております。そういったところでやはり、憧れというか住みやすかったというようなまちづくりを今後期待しております。どうもご清聴ありがとうございました。

○司会（福崎智恵委員）

ありがとうございました。

続きまして、木島委員からご報告申し上げます。

○木島好嗣委員

皆様、こんにちは。評価委員の木島好嗣と申します。よろしくお願ひいたします。皆様の中で東京都内へ通勤していらっしゃる方はいらっしゃいますでしょうか。私は、東京の方に勤務している者でございまして、毎日さいたま市から通勤をしております。そのような立場から今回評価委員会に参加させていただきまして、評価のほうに参加をさせていただいたと同時に、そこから感じたことがいろいろございましたので、それを今日申し上げさせていただければと思っております。

本日、私が申し上げたいこと、皆様にお伝えしたいことは2点になります。
(※資料19参照)

まず一つ目、評価でございます。先ほど廣瀬委員長、長野委員長職務代理からご報告いただいた評価でございますけれども、特に、この中で私が注目していただきたいというものがございます。

これが提言として委員長から報告があった事項でございます。

委員会でいろいろと議論を行ってまいりましたけれども、やはり今後ポイントとなるかなと感じたのはこの提言の部分のところだと思っております。

この部分はこのしあわせ倍増プランを完了に向けて

進めていく中で必ずいつかぶち当たる壁であったり、

評価の基準として見直さなければいけないところであったり、いつか見直すことが必要になってくる部分だと感じております。



【木島 好嗣 委員】

まさに子育ての世代、と同時に高齢者を支える世代だとも思っております。しあわせ倍増プランには高齢者の方々を応援するプランもございます。

木島 好嗣 委員

報告書 P.32

- ①評価については、評価結果や評価委員会からの提言として報告
- ②現施策完了後に、東京へ通勤する30代サラリーマンの世代のしあわせを倍増できる施策が生まれることを期待

(※資料19)

市民の方々にも注目していただきたいとともに、市の運営にかかわる方々に今後施策を行う上で重視していただいて、実施していただきたい事項がこの提言だと思っております。ぜひ、そこはよろしく願いいたします。

もう1点です。先ほど冒頭に申し上げましたが、私は東京に通勤するサラリーマンでございます。年代は30代でございます。そこでその30代のサラリーマンとして、このしあわせ倍増プランに関わってきた中で感じたことを申し上げさせていただきます。

この世代は、子どもをお持ちの方もたくさんいらっしゃると思います。

また、子ども世代の方々に向けたプランもたくさんございます。

一方で我々世代と申しますか、30代に向けたプラン、直接的なプランというのはあまりないのかなというところを感じております。

ただ、直接この世代に向けたプランをもし実行すれば、かなりこれは効果が高いのではないかなと思っております。

この世代が住み続けたいまちと思う、もしくはこのまちに住み移りたいと思、この世代が増えれば、さいたま市の発展にとっては、かなり大きな効果があるのではないかなと思っております。

次のしあわせ倍増プランでは、この世代に向けたプランが多く盛り込まれることを願ってやみません。

最後になりますが、私はさいたま市がとても好きでございます。よいまちになってほしいと願っております。この評価委員会に参加させていただいて、少しでもさいたま市の発展に寄与できたのであれば幸せでございます。どうもありがとうございます。

○司会（福崎智恵委員）

ありがとうございました。

続きまして、高島委員からご報告申し上げます。

○高島清委員

皆さん、こんにちは。

さいたま市PTA協議会から委員として出向させていただきました高島でございます。

PTA協議会の代表ということで、子どもに関する事業はもとより、すべての事業を次世代を担う子どもたちにとってどうあるべきか、そのような視点から評価させていただきました。（※資料20参照）

感想につきましては、手元の資料に書いてあるとおりですが、子どもに関するプランはこの139事業のうち24事業ということで、結構多いところでございました。

PTAの経験がある市長、そしてさいたま市の皆さんの子どもに対する、青少年健全育成に対する意識の高さ、子育てに対する意識の高さを感じている次第でございます。

報告書 P.33
高島 清 委員
①「次世代を担う子どもたちにとってどうあるべきか」 を常に念頭に置き評価
②「子育て」や「青少年育成」に対する意識の高さ 家庭・地域・学校が連携して取り組む 『土曜チャレンジスクール』(No.21)を実施
➡ 何を学びどう成長したのかを検証していくことが重要
➡ 参加した児童の生の声を聞くこと

（※資料20）

その中でも私が注目したのは、土曜チャレンジスクールの件でございます。

こちらは、小学校、中学校、高校とチャレンジスクール「どちゃれ」を始めるといってございましたが、やはり小学校、中学校、高校と、中学校、高校も基礎学力の底上げや地域とのふれあい、そして異世代との交流等々は大事だと思いますが、やはり中学校、高校は部活等々で忙しい中、どのような形で授業を進めていくか、そのようなところを意識して事業展開していただければいいのかなと思いました。

さまざまな事業を評価させていただきまして、このさいたま市が子どもたちが輝く絆で結ばれたまち、更なる幸せを実感できるまち、そのようなさいたま市となることを心よりご期待申し上げます。感想とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。



【高島 清 委員】

○司会（福崎智恵委員）

ありがとうございました。

続きまして、延原委員からご報告申し上げます。

○延原正弘委員

延原です。まず委員所感の第1点目ですが、委員長の提言の中にありましたように、まず第1点ですけれども、委員所感としては、4年間、または単年度の目標が不明確な部署が結構たくさんあります。

（※資料2 1 参照）

これは、昨年から比べれば若干減少してきていますが、これは本来ならば私達が評価の対象外とすべきだったかもしれません。

あるいは、達成度をゼロとしても構わなかったかもしれません。

いずれにしても、委員会で評価をする上で最大の問題点でありまして、目標を立てる職員の意識改革が絶対的に必要であると思います。

延原 正弘 委員

報告書 P.34

①4年間または単年度 **目標が不明確**な部署あり。（昨年より部署数は減少しているものの）
（p24「①工程表の明確化」参照）

↓

評価対象外あるいは**達成度ゼロ**とすべきかもしれない。

評価委員会上、最大の問題点で、早急に職員の**意識改革**の要あり。

（※資料2 1）

延原 正弘 委員

②平成24年度は**245億円の財源不足**を予想
(9月末、市が公表)

しあわせ倍増プランの殆どが支出を伴う



収入増を図る施策が目標を達成しているか？



✓ テクニカルブランド認証(No.54-2) 8社(a-8.6, p73参照)

✓ 戦略的企業誘致(No.54-3) 11社(b-8.4, p73参照)



いずれの事業も昨年度より**達成度高い**。

(※資料22)

ページのところに、54-2と、54-3というのを取り上げてありますけれども、テクニカルブランド認証事業というものですが、これは達成率「a-8.6」ということで非常に高いです。(※資料23参照)

それから、企業を誘致しましょうという、これは11社誘致しましたから達成度は「b」で点数も非常に高いです。いずれの事業も平成22年度もよかったし、平成21年度に比べてもよくなっています。

ところがその内容をよく見ますと、例えばテクニカルブランド認証事業というのは、一見達成度は高いのですが、この事業そのもののブランド力は非常に低いです。



【延原 正弘 委員】

延原 正弘 委員

テクニカルブランド認証(No.54-2、8社)(a-8.6)

一見、達成度は高いが、この事業そのもののブランド力が低い。→**ブランド力を高める**という目標がない。

戦略的企業誘致(No.54-3、11社)(b-8.4)

市の収入増(法人住民税、個人住民税等々)をさらに図るため、当初目標40社誘致/4年間をより**高い目標**に変更することを期待する。

なお、これらの事業は「雇用倍増プロジェクト」に分類されているが、**収入増の観点**から正しいか？

(※資料23)

第2点目として、9月末に平成24年、来年度の予算編成の関係だろうと思うのですが、245億円の財源不足が発生するというのを市が発表しました。(※資料22参照)

一方で、しあわせ倍増プランのほとんどが額の多寡は問わず支出を伴います。

すると、市の収入を図る施策がどうなっているのかというところでお手元の資料73ペ

すなわち、マスコミはほとんどこれを取り上げていません。ブランド、認証された企業側からすれば、さいたま市が認証してくれたということは非常に大事なのですが、それが全国的に伝わっていない。すなわち、目標の中にブランド力を高めるという目標が入っていないのです。これはぜひ入れ直していただきたい。

それから戦略的企業誘致ですが、これは11社も誘致していただきましたので、市の法人市民税等々で増収を図ることができます。達成度も非常にいいです。ただ、当初目標は4年間で40社を誘致するというのですが、これをさらに高い目標に変更して、残り2年をやっていただきたい。

それからもう一つ。これらの事業というのは雇用倍増プロジェクトに分類されています。市の収入を図るという観点からこれらを見直したときに、果たしてこの分類でよいのかどうかということは、市長はじめ市の内部でよく議論をしていただきたいと思います。以上です。

○司会（福崎智恵委員）

ありがとうございました。

続きまして、橋本委員からご報告申し上げます。

○橋本克己委員

去年に続きまして2年目の市民評価委員として評価をしました橋本と申します。

私は、木島委員とは違いまして、実は仕事でさいたま市に来ています。

NPOの法人を立ち上げまして、13年間さいたま市で仕事をしておりまして、非常に行政との関わりというのは許認可、あるいは指導、相談ということに関わることが非常に多くありました。

非常に行政というのは縛りがあって大変だなと常に思っております。

ただ、その縛りを少しでも解いていく、それがこのしあわせ倍増プランだったと認識しております。

その中で一つのシナジー効果ということで、去年も私、お話をさせていただいたのですが、やはり横断的に事業を実施していく、管轄している課だけではなく、この辺はより効果を生むためにも他の部署との協同というのは非常に重要ではないかと思っております。（※資料24参照）

聞きとり調査、ヒアリングの中でも話がありましたが、地下鉄7号線を進めていくという中で、まちづくり、そうすると自然とそこに道、都市計画の問題も出てくる。

どうするのか、あるいは観光客の問題をどうするのかということが各部署で一つ一つで行われている印象をすごく持ちました。やはり、その辺は連動して

橋本 克己 委員

報告書 P.35

①シナジー効果

②改めて知る行政の範囲の広さ

（※資料24）

いくということが非常に重要で、今からでもコントロールタワーとしてしっかり機能していくというのがとても重要ではないかと思っています。

ただ、この市民評価委員会を経験して私がすごく感じているのは、改めて行政の持っている範囲の広さ、いわゆる立法、司法以外の作用をすべて行政がやっている。そうすると、ゴミの収集から、さいたま市では打ち上げていないと思うのですが、気象衛星とか、そういったところまで非常に幅広く作用があると、そういったところまでしっかり取り組んでいくというのも、先ほどお話をしましたが、いろいろな縛りがある。その縛りを実は私たち市民も知って



【橋本 克己 委員】

いく必要があるなというふうに思っています。

こういった市民評価委員会では、どこが課題があって、どこが問題で、どういうところをつまづいているのかということを中心にきちんと付け合わせていく作業が、これから市民を巻き込んでいく本当の政令指定都市としてさいたま市の独自性が生まれていくのではないかとこのように思っています。

これからのしあわせ倍増プランに期待していきたいと思います。ありがとうございました。

○司会（福崎智恵委員）

ありがとうございました。

続きまして、林委員からご報告申し上げます。

○林美絵委員

今年から評価委員会に参加させていただきました林と申します。このたび一社員の立場からこの評価事業に加わることができまして、市政に貢献させていただいたことを大変ありがたく思っております。評価を終えまして、私の所感と申しますか、感じた課題を5つほど表示させていただいております。（※資料25参照）

林 美絵 委員

報告書 P.36

- ①プラン実現後の問題解決や発展にも対策と予算を
- ②施設等の名称を、わかりやすく抵抗のない名称へ
- ③区や施設などによる取組実施の偏りをなくす
- ④重要度が高いが評価が低く、かつ打開策が乏しいものは最優先して改善
- ⑤各年度や時期よっての問題を提起し、改善を実施

（※資料25）

まず1点目ですが、先ほど委員長からの提言、また各委員からもございましたが、現場職員の方々の声を聞いて、プラン実現後の問題解決や発展に力を注ぐことにも対策と予算を講じていただきたいと思います。

2点目は、特に高齢者分野で思ったことなのですが、施設名称等でわかりづらい、または利用するのに抵抗があるという声も現地視察に参加した際に聞かれましたので、直感的にわかりやすくかつ人を傷つけない名称を考慮していただきたいと思いますと感じました。

3点目は、項目によってなのですが、市内の区や施設によって随分取組結果にばらつきがございました。よく実施されているところとあまり実施されていないところが混在しているのが、いくつか見受けられましたので、そういう実施の偏りが無いことも課題だと感じました。



【林 美絵 委員】

4点目は、雇用問題など重要度の高い項目で2年連続評価が低く、かつ打開策が乏しいと思われるものに関しては、できるだけ最優先して改善すべきと考えております。

最後に5点目ですが、当初の目標の達成も大事なことなのですが、年度や時期によっての問題の吸い上げや問題提起と対策を期待したいと感じております。

ただし、この1年を通しまして評価が標準7点以上の項目に関しましては、その過程も結果も一つ一つ丁寧に取り組まれてよい成果となっており、できる限り民意を反映しようとする真剣に取り組まれている姿勢を感じました。

よりよいさいたま市のために今後ともご尽力くださることを期待しております。ありがとうございました。以上です。

○司会（福崎智恵委員）

ありがとうございました。

続きまして、私、福崎の番となりますが、この司会者席にてご報告申し上げます。

しあわせ倍増プラン2009は市長マニフェストを基にしています。そのため、さいたま市のコンセプトが凝縮された政策ばかりでした。

評価手法の構築

どれも重要なテーマでありながら、政策の重要度を評価するには多くのジレンマを抱えています。

昨年度に引き続き、私たち委員は評価の方法や重点を模索しながら意見を出し合ってきました。(※資料26参照)

中間点を折り返し、ある程度方向が見えてきたことは、報告書にあるとおりです。委員会では個人の意見や観点が重視されるよう、自由な雰囲気を保つよう声を掛け合いながら話し合いが行われました。

ここで個人の話になりますが、私の評価のポイントは回を重ねるごとにほかの委員の意見を参考にして変化しました。

後半では、よりヒアリングを活用するようになり、政策の実施がどのように行われてきたかを評価基準に加えるようになりました。

特に今年度は、ヒアリング対象を絞ったことで、より多くの時間を質疑、討議に使わせていただくことができました。

(※資料26)



【福崎 智恵 委員】

ヒアリングでは、例えば政策の実施に当たって担当者はどれだけ市民の声を念頭に置きながら臨んだか、同時進行している財政改革への責任や貢献について思慮していたか、目標設定は不況による市民ニーズの当然の変化を考慮したかに注意し、報告が足りないと思った部分を質問しました。

私たち委員はそれぞれの政策がプランとしてまとめられていながら、横断的協調があまり

見られないこと、成果を出しながら低予算に抑えるという視点が足りないこと、現場の声が知られていないように思えることなどに気付き、たびたび指摘しました。

先に挙げた3つの質問ポイントは、これらの視点を評価点に生かそうとしたものです。

評価委員会は各担当政策を扱う部署とは異なり、倍增プランを俯瞰できる立

場にあります。そこから生まれる総合的な視点や考えが少しでも伝われば、委員会の意義が果たせるかと思えます。

来年度もますます充実した話し合いとなることを期待し、所感いたします。以上です。

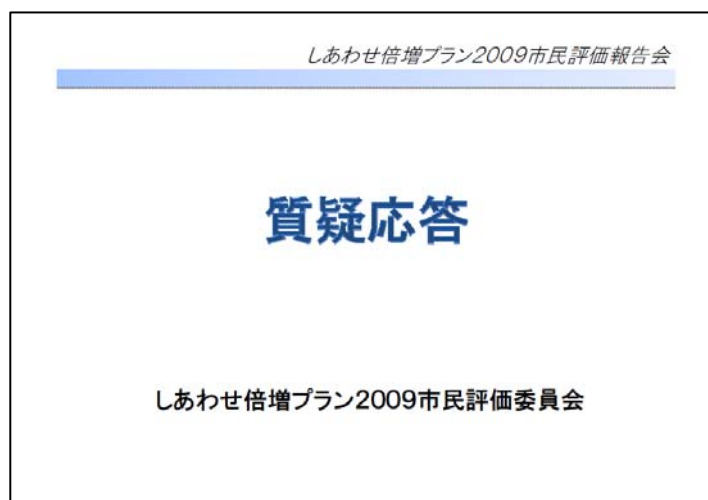
以上で、市民評価委員会からの評価結果のご報告、及び委員会からの提言、委員所感を終わります。



3 質疑応答

○司会（福崎智恵委員）

それでは、この後、評価委員会としてご来場の皆様からのご質問をお受けしたいと思えます。ご質問は、お一人3分以内とさせていただきます、時間がまいりましたらベルを鳴らしてお知らせいたします。それでは、どなたかご質問のある方はいらっしゃいますか。



●質問者A

木島委員に質問させていただきたいのですが、木島委員さんがご提案された30代のサラリーマンの、東京に通う人達向けにアピールするような政策とい

うのは、確かに収入増につながるような大切なポイントだと思っておりますが、木島委員さんが掲げられているような通勤時間短縮策以外に、30代のそういった働く人達向けにアピールする政策というのであればどのようなものがあるか、木島委員さんのご意見をお伺いしたいと思います。

○木島好嗣委員

座ったままでご回答させていただきます。

ご質問いただきありがとうございます。

私が考えていることは確かにいくつかあるのですが、仕事に直結する考えだけではもちろんないと考えておりまして、例えば土日に私はお休みをいただいております。

そのときにくつろぎやすい街であったりですとか、あるいは遠方へ旅行に行くことも多いのですけれども、旅行へ行きやすい街であったりですとか、決して仕事だけではなくて、仕事以外の部分で休まる街であることも非常に重要ではないかなと思っております。

実は、この評価委員会に選ばせていただくときにレポートを提出させていただいたのですけれども、その中にいくつか提言と言いますか、おこがましいのですけれども、書かせていただきました。その中でもし参考にさせていただければと書いたこともあります。

それがまさに今申し上げた、休日に住みやすい街と旅行にも行けるような街と書かせていただいております。

決して仕事に行きやすいだけでなく、サラリーマンにとってやさしい街にする方法というのもいくつかあるのではないかなと思っております。お答えになっておりますでしょうか。

●質問者A

ありがとうございます。

○司会（福崎智恵委員）

それでは、続きましてお手を挙げられていた最前列の方、お願いします。



●質問者B

質問というよりも、このしあわせ倍増プランの原則と言いますか、原理と言いますか、まず一つ、当初非常にこのプランの報告書の中でよく単年度、単年度という表現を使っておりましたけれども、単年度のパフォーマンスだということが非常に経費の無駄ではないかという感じをしております。

なぜ複数年度に変更しないのか。それから、さらに21年度の11月から始まった中間であるとか、何か月しかないような表現をされておりましたけれど、非常にその辺が本来、12か月であれば12か月、あるいは半期であれば6か月というふうな途中で切らない表現でぜひ今後の計画をやっていただきたいというのが一つです。

それから財政の問題ですが、しあわせ倍増プランというのは当然、お金がかかることですから、非常に疑問を感じますのは、しあわせになることは非常に結構なのですが、200何億ですか、財政が赤字になることが目に見えているという、平成24年には245億円の財源不足が発生するということでありますので、しあわせを考えると同時に当然市民の義務もありますが、市として財政の緊縮というか、どうやったら逆にしあわせ倍増プランが安価で安い金額でできるかということも、ぜひ、委員長ないしはどなたかからご回答いただきたいと思います。

○廣瀬克哉委員長

まず、単年度、単年度ということについてのご疑問をいただきました。

今年度の評価について、例えば、去年の評価からさがっているものがあると、積み上げであるならば何で下がるのかと疑問をお持ちになるかもしれません。

そういうことも考えた上で、何が今回の評価であるかということをはっきりさせるために、つまり単年度評価であって、去年の評価においては、準備段階は順調でしたねと評価をしたものの中に、残念ながら実行段階に入るといろいろな壁があったりして順調とは言えない点数になったものもある。

そういうようなことをチェックをしていく、検証をしていくということが2年目の評価の主眼でもありましたので、その意味でこれはなぜ積み上げでなくて、積み上げであれば順次上がっていくだろうと、初年度がこの段階であったのが、2年度に少し上がって3年度にはさらに上がって完成に向かうと考えれば、順次どの事業も上がっていくと捉えられるでしょうけれども、我々は2年度にここまでいきますというものに対して到達したかしなかったかを見ました。

なぜかと言うと、初年度は準備ということで予定どおりいっていたけれども、2年度の上がり方が予定していた、あるいは目標としていたよりも少なかった場合、初年度より少し上がりましたという評価ではなくて、2年度目、ここまでいこうとしていたのに、そこにこれだけ足りませんでしたとはっきりさせる

ことが評価の結果をフィードバックして改善するためには、より明確なメッセージが出せる、そのような思いがあつての単年度ということでございます。

ただ、例えば昨年の評価というのが、年度区切りでもって3月までの区切りがよかったのか、あるいは行政の年度ということでなく、11月にスタートした計画であるので昨年の11月くらいになったところで評価すればよかったのかという点についてはそういう考えもあるかもしれませんが、行政のデータというのは単年度主義で出てくるものですから、例えばお金の使い方、いくらかかったかということについても決算の情報などを下敷きにすることになりますと、つまるところ年度ごとのデータで見ていくのが4年間全体の評価の見通しを立てる上ではやむを得ない選択であった、そういうことでございます。

それから、財政についての問題点ですけれども、このしあわせ倍増プラン2009そのものの中には何と言いますか、行政改革的なことについての目標もいくつも入っておりますが、ただそれによって直接この事業を実行することによって、どれだけ節約につながるかということにはなかなか個別の行政改革の項目からは出てこない部分もございます。



ただ、トータルに見て、先ほどのこの報告書にもありますし、先ほどの委員所感の中でも出ましたように、来年度245億円の財源不足が見込まれるという財政の厳しい状況でもありますので、先ほどの提言の中でコストパフォーマンスという要素をこの倍増プランの実施に当たって、これまで以上に強化をしていただきたいということを強調させていただいたのは、そこを見越してと申しますか、そういう状況の中で、しかし目標として掲げたことがいらなくなったということではない。

であるならば、財政全体としての245億円が足りないとしても、その枠の中でどうやったらこの目標に近づけるかということに向けて、これまで以上にそこに注意を向けた努力をしていただきたいと、そういう形で市の行政の方にフィードバックさせていただきたいというのが、私たちの考え方です。

●質問者B

確かに原理、原則はわかりますが、私たち市民としては当然さいたま市に税金を納めてそこから有効に活用してほしいと、特に合併と言いますか、さいた

ま市が100何万人ですか、政令指定都市になった瞬間にすべてのものの値段が上がってきています。

公共料金と言いますか、高い方にその標準を合わせて、大きいことがいいことなのかということが、この辺でやはり10年経っておりますので、それも併せてぜひ、倍增プランの中でも、その辺の次から次へとしあわせの倍增プランが拡大していくことをすべてが良しとはしませんので、その辺の計画の内容もすべて財政の状況を見て、ご判断いただければ市民としてはありがたいというふうに思っております。以上です。

○廣瀬克哉委員長

今の点は今年のフィードバック、それから来年以降の評価においてもぜひ、念頭におかせていただくということによろしいでしょうか。

●質問者B

そうですね。

○司会（福崎智恵委員）

ありがとうございました。ほかにご質問のある方はいらっしゃいますか。では右手前方の方、お願いします。

●質問者C

今回、このようなわかりやすい資料をまとめていただいて、まず感謝させていただきます。

実際にどのようなことが行われているかわからないで住んで暮らしていたというのが実態でございましたので、非常にわかりやすくなっております。

今回この中でこのくらいの密度でしかなかったと思ったのが一つ。これ皆さんに対してでなくて、今回この中で高齢者に対する施策の部分が一部ございました。おそらく31から36といった部分のところかと思えます。

今、さいたま市の人口が大体123万人、高齢者が23万人ですか。19パーセント少しの高齢化率でございます。近隣の市町村で言いますと、規模的に少し小さくなりますけれども越谷市がもう既に24パーセント弱といった数字になっています。

ですので、非常にさいたま市自体はまだまだこれから、どんどん比率が上がっていくであろうと、そのための準備として、このしあわせ倍增プランの中に入っている項目がこのくらいの量でしなくて、その半分が正直、大変になっている高齢者に対するの施策なのかなと。

ご自宅で介護されている家庭であったりとかそういったものとか配食サービスとか一部あたりしますけれども、現実的にそれが本当に救いになってくるのかなと。

それで、先ほどの意見の中でさいたま市が非常に大きくなったという話があったかと思いますが、おそらくは今、僕が言った数字というのはさいたま市全体であるはずです。

ですから、岩槻区と浦和区が同じ比率であるかと言えば、大幅に違うと思います。地域に即したプランを立てていかなければいけないですし、全体の数字が大きくなったときには、数字的に非常にしわ寄せをくっている部分というのがもう手遅れということになりかねないというところがあると思います。

しあわせ倍増プランの検討という形をとられていますので、当然プランにのっとったことに関しての検証ということになるのだと思います。

ただ、普段のベーシックになる市の仕事というものが実はとても重要なところで、今、介護に関する部分というのはほとんどの部分が市町村に委ねられています。

というか国とか県が放り投げて市町村が受けざるを得ない状況かと思えます。とても大変なところかと思えますので、そこら辺の部分をわかりやすく説明いただいて理解ができ、その応援ができるという体制がまた次の目標になるのかなと思えますけれど、目指していただければと思います。

○司会（福崎智恵委員）

ありがとうございます。

○廣瀬克哉委員長

私の方から答えができる話ではないような気がしますが、少しだけ説明させていただきますと、高齢者に対するサポートのさまざまな仕事の多くが実態としてというか、実務としてかなり多くが市の仕事となっていますが、他方で制度としては、例えば公的介護保険であるとか、法律に基づいた全国ある意味共通のメニューがあり、共通の制度があり、その上で、しかし事業実施の部分で市がやるのが多くございます。

こういう領域がこのしあわせ倍増プランの中には入っていないくて、その周辺の独自施策の部分がこちらに入っているという観点で言いますと、高齢者の方に対するいろいろなサービス、公共サービスの中のコアになる部分がほとんどがその法定された事業とそれに関連される事業で展開されていて、その周辺のごく一部がしあわせ倍増プランに入っているものですから、今回の評価でい



うと、その意味ではやや外側にある多少のものを評価をしたという段階にとどまるのかもしれませんが。

それで、高齢者のサポートのためのさまざまな施策については、例えばその公的介護保険の事業についてはそちらに関する評価を検証し、3年ごとに事業計画を立てていく、そしてそれに対する市民参加の機会であるとかそういう形にもなっているかと思えますけれども、ただあまり縦割りでなく、そういうものを総合的に見られるように検証をしていかれる体制であるとか、あるいはしあわせ倍増プランの中にある行政改革、行政経営の観点からそれをしっかりと見守っていくという体制をとっていただくことは、市にぜひお願いしたいというふうに思っております。

○司会（福崎智恵委員）

よろしいでしょうか。ほかにご質問のある方はいらっしゃいますか。左手最前列の方どうぞ。

●質問者A

何度もすみません。ありがとうございます。

もう一点質問させていただきたいことがありまして。報告書21ページに進捗度「c・d」になってしまった事業があって、その中で目標達成に向けて事業の再検討が必要と考えられるものというのがありました。



その例の中で挙がっているものの中で、観光客の誘致、これについては提言の中でもあるように、市税の収入増に向けて大切な項目かと思っているのですが、どのような方向で事業の再検討を進めていくべきなのかそういったことについて、委員会の中で話し合われた議論とかを共有していただければと思います。

○廣瀬克哉委員長

ご質問ありがとうございます。

この項目につきましてはなかなか期待されたように効果が上げられているのだろうかといろいろなご意見がありました。

特に、公募市民の委員さんの中で地域で商業に従事していらっしゃる方がいらして、そういった方からもその観点でなるほどと思われるような発言をなさったのですが、今日はご都合が合わず欠席ですが、どのような論点であったか

思い起こしながら簡単に伝えますと、つまり地域の中にある資源でかつ外から訪問される方にとって魅力がどうあるかということ、地域の内側にいる者はなかなか気がつかないで、それでそういう観点から外から見てさほどではないものを観光資源として認識していて、他方で外の視点から見るともっとうまく外にアピールできるはずのものが地元にとってみるとある意味で当たり前のものに見えてしまったり、つまらなく見えてしまったりして、うまくできていない。

そういう観点からの議論があり、個別的にはいろいろなアイデアも出ましたがけれども、それはもう一段階どこかで集中して検証しなければいけないレベルのものもある、あのようなこともあるという論点の思いつきという形ではあったかと思えます。

ただ、何れにしてももう一度訴えかける相手方とそれから内側と言いますか、住まわれている市民の方々との認識のギャップを埋める工夫というものが一ついるのではないかという点であったかと思えます。

●質問者A

ありがとうございます。

○司会（福崎智恵委員）

ありがとうございます。ぜひ皆様の気になった点、ご不明な点などお聞きしたいと思えますが、ほかにご質問がある方、いらっしゃいますか。では左手前方の方どうぞ。

●質問者D

50ページのパブリックコメント関係ですが、パブリックコメントの資料とか意見用紙を各区の情報公開コーナーに置いてありますが、情報公開コーナーを担当している民間委託事業者自身がパブリックコメントの意義をわからないので、関係資料とか意見用紙が市民から見えないところに置かれていたり、あるいは置かれていなかったりするのでもパブリックコメントの意見数の少ない原因になっているのかと思えます。

それから、75ページにある観光資源の活用ですけれども、大宮のスパークカーニバルですね。ご存じだと思いますけれども、プロサンバダンサーが招聘されていまして補助金が数十万円使われているのですけれども、プロサンバダンサー自体はいいのですけれども、補助金をそこまで使って観光資源



と位置付けて招聘する必要があるのかと思います。

それから、81ページの委員会の開催状況が書いてありますけれども、傍聴者数を入れていただきたいと思います。

それから、82ページに現地視察が書いてありますけれども、これもパブリックコメントの関係ですけれども、ぜひ浦和区の情報公開コーナーをさいたま市における情報公開のある意味での最前線と思われるので、視察していただければと思います。

最後に委員長にお尋ねしたいのですけれども、個別事業を評価する視点と言いますか、例えば男女共同参画の視点が入っているのかですとか、情報提供の公表がきちんと行われているのかとか、各事業において個人情報の保護がきちんと確保されているのかとか、あるいは適正な行政手続きが確保されているのかとかいうようなことも非常に内部的な事項としても非常に重要だと思うので、そういうところを個別事業の評価にどのように入れていくべきかとお考えでしょうか。以上です。

○廣瀬克哉委員長

まず、個別の論点と言いますか、問題点のご指摘ありがとうございます。

パブリックコメントについて、なぜ使いにくいかという議論が何回か委員会の中でもなされて、周知徹底が足りないという一言ではなく、なぜ使われないのか、使われにくいのかということ掘り下げて改善していただきたいと提言をしておりますが、情報公開コーナーにおいてどこに置いてあるとかは具体的には把握しておりませんでしたので、非常にありがたいご示唆をいただいて感謝いたします。

それ以外の点につきましても、ぜひ今日行政の方もたくさんいらしておりますので、記録にとどめて関係の部署に伝わるようにしたいと思います。



個別事業の進捗を図る、しあわせ倍増プラン2009の市民評価ですけれども、確かにご指摘のように、どの事業でも共通して満たしていかなければならない観点というのは当然存在すると考えております。

それについて、特に市民評価委員会でありますので、市民参加であるとか、市民の観点、これについてはかなり意識をして議論をし、評価の中でも問題がそこにあると考えた場合には、個別のコメント等で見えていったというつもりではありますけれども、例えば行政の適

正手続であるとか、あるいは男女共同参画、あるいは個人情報の保護であるとか、個々に制度があるものの、そのコンプライアンスの実態がどうかということについていろいろとご議論があるものについて、十分に評価尺度の中にきっちり入れられているかということ、確かにご指摘の点はやや明確ではなかった部分があろうかと思えます。

その点は、来年度以降の評価の尺度を立てていく中で、まずは内部評価のフォーマットの段階から少し反映していけるように改善する必要のある項目かと受け止めさせていただきました。

それから傍聴者数ですが、これは情報を公開していくようにしたいと思えます。今年情報が残っていますので、事後的な報告となってしまいますが、印刷物に間に合いませんけれども、そういった形でホームページ等で市民評価委員会の報告について補足させていただきたいと思えます。

○司会（福崎智恵委員）

ありがとうございました。それではお時間のほうもせまってきておりますので、最後にお一方ご質問ある方、お願いします。では、右手前方の方どうぞ。

●質問者 E

市民参加がこれから重要になっていく中で自治基本条例というのが各自治体で定められていると思うのですがけれども、この45ページの中で職員のコメントで「現行の中で条例の定める必要性を感じない」と、その市民参加を担保するための制度化として自治基本条例って必要だと思っていたのですがけれども、職員の中でそういうコメントが出るというのはどういうことなののでしょうか、教えていただければと思います。



○廣瀬克哉委員長

市民評価委員のコメントの中から重要なものと言いますか、ポイントを拾い上げたものですがけれども、これを書かれた委員は今日いらっしゃいますか。ここについてはこういう意見、こういう意見という多角的にいろいろな観点から意見があった場合にはそれを並列して載せておりますので、今日いらっしゃいますので、それがどういう趣旨だったかご説明していただきますでしょうか。

○伊藤巖委員

自治会関係者として、基本条例検討委員会の委員をしていました。

自治会の組織は、さいたま市各区自治会代表者10名（正・副会長会）、各区内地域自治会代表53名（理事会）により構成され、自治基本条例の必要性について検討・議論を重ねてまいりました。最初の段階ではほとんど関心がなかったことを記憶しております。

その後、検討内容が具体的になり、実際、現段階では「必要なし」という結論が出たことを報告します。

自治会として基本条例の内容に関して、漏れている部分、抜けているところ広範囲にわたり再度、確認検討しなければいけない点が多くありました。

その結果、賛成できない旨の「要望書」は既に提出済みです。

○廣瀬克哉委員長

というような観点もあり、各団体を代表して参加されている委員さんもいらっしゃいますので、そこから伝えられた内容として挙げてあるということでございます。

また他方で、もっと市民参加のフォーラム等、積極的にやりながらつくってほしいという意見もありましたので、その下のコメントのようなものもあるということです。その意味では、委員からの意見の部分は問題提起として重要と思ったのは収録しておりますので、全体が必ずしも矛盾するものがないとか、そういう点で言えば、場合によっては違う観点からのコメントも載っていることもございます。そういうものとして読んでいただければと思います。



○司会（福崎智恵委員）

ありがとうございました。

貴重なご意見、ご質問をいただきまして誠にありがとうございました。

質疑については、ここで終了させていただきます。

それでは、本日の報告をお聞きいただいております、清水市長からご感想と自己評価をいただきたいと存じますが、ここで評価委員会といたしまして、廣瀬委員長から清水市長へ市民評価報告書をお渡ししたいと思います。

清水市長、廣瀬委員長、どうぞ壇上へご登壇ください。



(～ 清水市長と廣瀬委員長が登壇し、評価報告書の手交を行う ～)

○司会（福崎智恵委員）

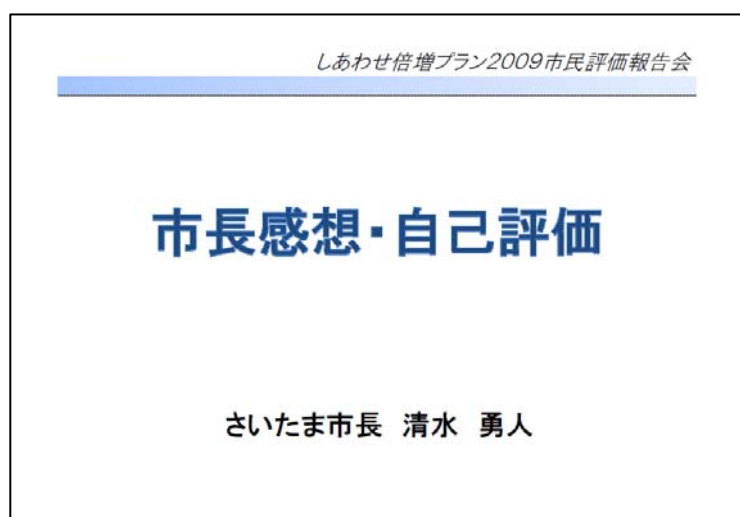
それでは、本日の議題「市長感想・自己評価」になります。清水市長、よろしく願いいたします。

4 市長感想・自己評価

○清水勇人市長

本日は、しあわせ倍増プラン2009市民評価報告会に多数の皆さんにご出席をいただきまして、こうして実施することができましたこと、まずもって心から御礼を申し上げたいと思います。

また、10回にわたりまして、この市民評価委員会を実施をいただきました、廣瀬委員長を始め、各委員の皆様方におかれましては、本当に熱心なご議論、ご審議をいただきましたことを、この場をお借りしまして、改めて御礼を申し上げたいと思います。



この市民評価報告会、昨年も実施をしていただきました。昨年につきましては、冒頭でも廣瀬委員長からお話がありましたように、約4か月くらいの短期間で評価をいただいたものでございましたけれども、今回の評価委員会での報告につきましては、昨年、平成22年度、1年間実施をしてきたものについて、ご評価をいただいて、まさに実質的には初めての通年評価ということと言えるのではないかと考えております。

私自身としましては、内部評価、そして、この評価委員会の皆様からいただいた評価、これらで約8割は、一応、順調には進んでいるというようなことではございましたけれども、まだまだ、その達成目標のあり方、そしてその質というものについては、よく精査をすることが必要であるというようなご提言、あるいは、ご提案をいただいたところであり、これらについて、私たちとしても、単にこの目標の設定をするだけではなくて、その質の問題、あるいは、それに対応するコストパフォーマンスの問題など、皆様からご提言をいただいたことについて、今後やはり十分に認識をした上で、進めていかなければいけないということを、改めて痛感をしたところであります。

行政の経営状況を把握する上でも、いわゆるPDCAということが言われるわけでございますけれども、まさに、今回このPDCAのCのところをやっていただいたわけでありますから、私たちとしては、委員会から指摘をいただいたさまざまな点について、十分検討して、そして、今後のこのしあわせ倍増プランの一部見直しなども含めて、しっかりとやっていかなければいけないというふうに思っております。

そして、一部、先ほど来、いくつかご質問が出ておりましたけれども、私たち行政としては、いくつか、実を言うと計画がございます。

一つは、この「しあわせ倍増プラン2009」、これを最優先的にやっていこうということでつくらせていただいたものでありますが、これ以外に、総合振興計画というものもございます。

それから、やはり、昨年つくりました「行財政改革推進プラン2010」という計画もございます。

そして、毎年度ごとに予算をつくりまして、それに応じて各施策をそれぞれ実施をしているわけで



【清水 勇人 市長】

ございますが、ちょうどこの財政の問題、いくつか出てきておりますけれども、今回は行財政改革の部分については、組織でありますとか、大まかな部分しか、このしあわせ倍増プランの中には載せておりませんが、「行財政改革推進プラン2010」の方でそういったものへの取組については、やらせていただいております。もちろん財政状況なども十分に踏まえながら、この質を高めていこうと、少ない予算で大きな効果を上げていく都市経営をしていこうというようなことで、やらせていただいております。

昨年度も、平成22年度も約298億円の行財政改革をやらせていただいたところでございまして、今回もそういったものを念頭に置きながら、来年度の予算編成を更に進めていくつもりであります。

ただ、その予算編成に当たっても、この「しあわせ倍増プラン2009」というものをベースに、最優先のものとして考えながら、その単年度ごとの財政状況なども踏まえて、計画をつくり、そしてそれらを実施をしていくという形になるということで、ご理解をいただければと思います。少しそういう意味では、わかりにくい部分もちょっとあったのではないかと思います。一応、お話を申し上げさせていただければと思います。

また、ご案内がありましたように、これからのさいたま市の大きな課題として、いくつかございます。

一つは、先ほどもありましたけれども、急激な高齢化の問題がございます。

さいたま市は今年10周年を迎えるわけですが、ちょうど10年前は、12.8パーセントというのが、65歳以上の比率でありました。

今は約18.8パーセント、6パーセント増えました。またさらに10年後はどうなるかと言いますと、26パーセント、さらに10年経った20年後には30パーセント近くなると、30パーセントを超えるというようなことが言われている中で、最も急激なスピードで、高齢化が進んでいく地域である。

それらを踏まえた行財政運営をしていかなければいけない。これはさいたま市にとって大きな課題であると思っております。

それから、もう一つはやはり、公共施設の老朽化という問題があります。

これは昭和40年代に、ちょうど高度成長期に学校でありますとか、あるいは、公民館、コミュニティセンターなど、いわゆる公共施設がたくさん、旧



の4市でつくってきたわけでありましてけれども、それらがそろそろ耐用年数に近づいてきている。

それらをどのように更新をしていくか、その老朽化した施設をどのように改修をしながら、厳しい財政状況の中でどのように、市民の皆さんのしあわせを実現をしていくのか。これは私たちに課せられた大変大きな課題であろうと思います。

このしあわせ倍増プランは、ハード面というよりは、むしろソフトの面が多く載せられているわけでありましてけれども、市民の皆さんにとって、少しでもしあわせが実現できるような行政サービスを推進していく上で、私たちは優先順位を付けてこれらを実施をしていかなければいけないというふうに思っております。その中の私たちとしての一つの優先順位の中心にあるものというふうにご理解をいただければと思います。

また、いわゆる高齢者施策の部分につきましては、先ほど廣瀬委員長さんからもお話がありましたように、実を言うと国の方で、法律で決まっている部分がありますので、それらをあえて除いた形でプランをつくらせていただいているということもございまして、ちょっと、皆さんから見ると、高齢者施策が弱いのではないかと、こういうようなご指摘もあったのだらうと思います。

基本的には、こういったことも含めて、私たちの毎年の予算編成の中では、このしあわせ倍増プラン、プラス、その時々々の経済状況であるとか、あるいは、その時々々の市民のニーズというものを、十分に把握をしながら、その中で予算編成をさせていただいているというような部分がございましてけれども、そういったことなども、今後、しあわせ倍増プランの中でも反映をしていくというようなことも、考えていきたいというふうに思います。

ちょっと、話がまとまらなくなりましたが、今回、こうした形で、市民の皆さんからも忌憚のないご意見をお寄せいただき、また、委員の皆様方からも、率直なご意見、あるいは提案、ご提言をいただいたこと、私たちとしても大変ありがたいこととさせていただきます。

今後も皆さんからいただいた、こうしたご提案、ご提言などをしっかりと踏まえまして、PDCAのAの部分の部分をしっかりとやってまいりたいと思っておりますので、これからもよろしくお願ひしたいと思っております。

最後になりましたけれども、市民評価委員会の委員の皆さんに改めて感謝と御礼を申し上げますとともに、これからも市民の目線を忘れずに、市民の皆さんの声をしっかりと聞きながら、しっかりと行政運営を行っていききたいという決意を申し上げさせていただきます、私のご挨拶に代えさせていただきます。

皆さん長時間にわたりまして、ご参加をいただき、本当にありがとうございました。



○司会（福崎智恵委員）

ありがとうございました。

それでは、閉会に当たりまして、廣瀬委員長からご挨拶を申し上げます。

よろしくお願いいたします。

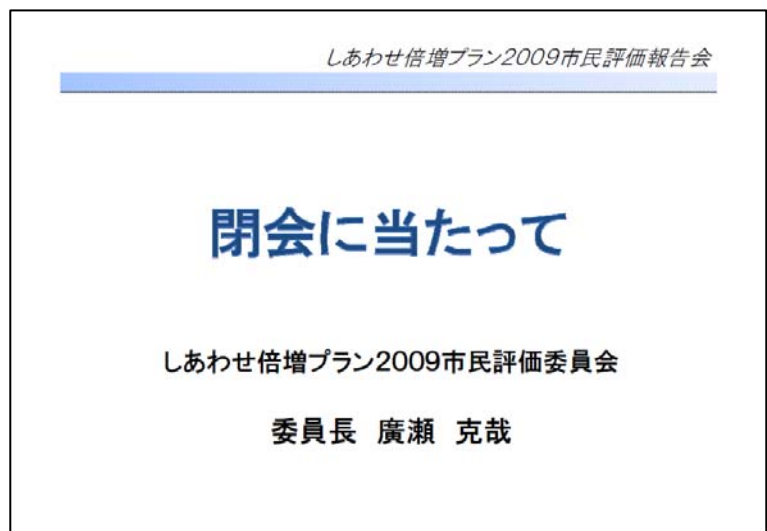
5 閉会に当たって

○廣瀬克哉委員長

皆様、長時間にわたりましてご清聴ありがとうございました。

以上をもちまして平成23年度のしあわせ倍増プラン2009市民評価の報告とさせていただきますが、もうこの質疑応答やこの報告の中

でも何度か述べたことと若干重なる面もございますけれども、この報告をこのように生かしていただきたいというメッセージを市長以下、市の皆さんにお伝えして締めくくりの挨拶とさせていただきますと思います。



私たちの評価の結果、今日の報告会は口頭で説明をする限られた時間ということを考えますと、全体の分析と次に向けての課題の要点、個々の市民評価委員からの重点的に述べたいというコメントを中心とさせていただきます。個々の事業に関しましては、41ページ以下の一覧表の中で委員のコメントを全部読み上げるだけでも2時間では収まらないわけではありますが、そういう形でまとめさせていただいておりますので、これは特に市のご担当の分野の皆さんにはここを改めて確認をいただきながら、受け止めていただければと思っております。

また、ヒアリング対象の事業の担当の皆さんには当然ヒアリングの中のやりとりを通していろいろなメッセージもお伝えできたかと思っておりますが、今回につきましては全部の事業をヒアリングしたわけではございません。

選択をしたいくつかの事業に絞り込んだわけですが、そのヒアリング対象外であった方も、ぜひ類似のあるいは類似するかどうかは別にして、他の事業のヒアリングの議事録も公開されておりますので、ぜひそういうところから委員会がどのようなところに目をつけて、どのような発想で質疑をやってきたか、ほかの事業を参考にさせていただきながら、ぜひ酌み取っていただきたいと思います。

そういうことを通して、先ほどの清水市長の感想のメッセージの中にもありましたけれども、これだけ急速にいろいろな行政課題が更に重くなっていく中で、限られた資源を有効に使いながら、何をどれだけ取り組んだということ自体ではなくて、その取組の結果として市にどのような効果を上げていくのか、そういう観点からの取組体制の更なる改善につなげていっていただければと思う次第でございます。



【廣瀬 克哉 委員長】



また、それに対する市民の皆さんからのさまざまな声、実際にいろいろな施設をお使いになったり、制度の利用者になられたり、ということを通してしか見えないこともあろうかと思えます。

また、行政のプロである行政マンの方が伝えようとするメッセージの中には、当然行政用語というのが自然に入ってきますけれども、それはどういうことかわからないということも含めて、そういうフィードバックをいろいろな場面で多様に多元的に市民の方から市の担当のそれぞれの職員の方に伝える機会が増えれば増えるほど、やはり市の行政というのはよくなっていくのだろうと思います。

そういうときの参考材料の一つとして、また今日の報告書も使っていただければ非常にありがたいと思うところでございます。

以上をもちまして、平成23年度さいたま市しあわせ倍増プラン2009市民評価報告会を終了させていただきます。

長時間にわたりまして、ご清聴ありがとうございました。

○司会（福崎智恵委員）

ありがとうございました。

以上をもちまして、本日のしあわせ倍増プラン2009市民評価報告会を終了いたします。

本日は足元の悪い中、ご来場いただきまして、誠にありがとうございました。

なお、会場出口でアンケート用紙とペンを回収させていただいております。お帰りの際に回収箱へご投入ください。

ありがとうございました。

しあわせ倍増プラン2009市民評価報告会

ご参加ありがとうございました

**アンケートは出口付近にある
「回収箱」へお願いします。ペン
シルもお返しください。**

